シリーズ
水辺の鳥たち
◆カルガモ

白子川源流通信

この子ガモたちは昨年、白子川の火の橋付近で生れました。卵はヘビやカラスなどに狙われ孵化できないことも多いのですが、元気に育って、月見橋近くの小さな滝を次々にダイブする冒険シーン、宮本橋付近での親子のほのぼの場面など様々な姿を見せてくれました。

子ガモたちは４月後半～５月に見られますので（写真は昨年5月8日）、川辺を散策してみてください。鳥たちが集う白子川、きれいに守っていきたいと思います

（写真と文 水野勉）

2020年5月 第59号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

白子川源流・水辺の会

20年の歩み（上）
―設立まで―

1999年のある日、東大泉7丁目の「みどり広場運営委員会」で、初代代表となるHOさんが中心となって、あたためていた提案を出した。会の中に「白子川部会」を作りたい！と。「どんな活動？　企画書を出して！」の要望に、源流のあるべき姿（湿地帯）の絵もつけて提出し認められた。

「部会」はすぐに動き出し、川に入り、掃除や水質調査をし、ホトケドジョウを見つけたりした。当時は今よりドロが少なく砂が多くキレイだった。思えば、この頃が実質的な“創業”だった。

きっかけとなった「みどり広場運営委員会」とは？

練馬区には、民間から土地を無償で借用し、あそび場として開放するために地域住民に管理を委託する制度があるが、この会は古くから委託されていた。東大泉・南大泉から多くの人が参加し、活発な活動をしていた。メンバーは会の活動以外に、学校教育を問う活動、学童保育父母会やPTA、父親ソフトボールなど、独自の動きをしていた。

たとえば、HIさんは「地域にコミュニティ空間が必要だ」と、みどり広場のメンバーにも働きかけて、自宅の一部に「カフェみなみ」をオープンした。当時たまり場は駅近くにしかなかったから、画期的だった。相談や打合せ、プロ音楽家を招いたライブもあって集まる機会がふえた。

KIさんは「白子川でホタルを飛ばそう」と考え、石神井郷土資料室で飼育方法を教わったり、皆で飯能へ幼虫の餌になるカワニナをとりに行ったりして、ついに井頭橋の下に“ホタルゲージ”を設置し幼虫を放した。夏の夜にはこぞって川へ行き、いつしか用意されたハシゴで降り、「光った?」「光ったよ!」と楽しんだ。＜裏へ＞

自転車で白子川終点に行ってみた

～2020.1.19 “WE LOVE 白子川の会” 活動報告～

白子川の終点にて

冴えわたる冬空の朝、大人子ども合わせて15人ほどが東映橋に集まり、冒険旅行に出発した。川は上流部とは違い三面護岸で、底面もコンクリート張りのため水草があまり見られない。そんななかでも、真鯉を見つけて歓声があがる。

練馬区と和光市の境、旧川越街道と交差するところにある東埼橋では自転車を下りて、川底に1.5メートルの落差があり、下流の魚が上ってこられないことを確認した。和光市内＝旧白子宿ではレトロな町並みを眺めながら、さらに下流へ。

白子川終点の落合橋で新河岸川に合流する。草に覆われた広大な土手の向こう側は荒川。白子川とは一味違う川の風景だ。目指していた「白子川終点」の石碑は、フェンス越しにあり近づくことができなかった。帰りは少しゆっくりと湧水地や佐和屋という古い商家の建物、清水山の森などに立ち寄りながら戻ってきた。

30年ほど前に学童クラブの親子で、源流部から清水山あたりまで歩いたことがある。その時のわくわく感も思い出され、川沿いをゆく楽しさをたっぷりと味わった半日だった。　（喜多浩子）

＜表紙から続く＞　その頃、白子川源流に「親水公園」を作るワークショップがあり、ここにもメンバーが参加。行政と熱い議論を重ね、今の水辺空間になった。

こうした地域のさまざまな活動のなか、2000年に水辺の会設立準備会ができ、HOさんが河川財団（旧河川環境管理財団）の助成金募集記事を見つけ、私と一気呵成に申請書を書き上げた。その甲斐あってか、5年にわたる高額の助成金が認められ、翌2001年6月の設立総会に向けた準備は整っていった。

（菅沢 博）

定例活動報告

日　時	調査項目 / 調査地点	天気	気温（℃）	水温（℃）	水深（cm）	pH	COD（mg/L）	源流部流速（km/h）	源流部流量（L/秒）	主な活動 特記事項	参加人数（うち会員）名	収集ゴミ 90L（袋）
2019年12月22日 ＜29日15:30～＞ ※水質調査：振替測定	源流部	晴	11.2	15.9	－	7.0	－	欠	欠	人手がなく十分な調査が出来ず	記録なし	記録なし
	井頭橋			15.8	－	6.6	－					
	井頭～火の橋中間			16.5	－	6.5	－					
2020年1月26日 ＜30日10:10～＞ ※水質調査：振替測定	源流部	晴	14.1	16.9	22	6.6	6	0.18	87.13	－	8（7）	7
	井頭橋			16.4	39	6.7	2					
	井頭～火の橋中間			16.5	32	6.7	4					
2020年2月23日 ＜13:40～＞	源流部	晴	16.5	18.3	5	7.0	4	0.16	49	・親子連れの参加が多く、ｻﾞﾘｶﾞﾆ取りを楽しみお汁粉を味わった ・読売新聞社の取材あり	14（14）	27
	井頭橋			16.8	24	7.3	2					
	井頭～火の橋中間			16.3	26	7.1	2					
2020年3月22日 ＜13:40～＞	源流部	晴	23.5	22	8	7.2	4	0.192	59.7	井頭橋を囲んで、ﾋｲﾗｷﾞﾅﾝﾃﾝが黄色い房状の花を、ｶﾘﾝがﾋﾟﾝｸ色の愛らしい花を咲かせた	15（15）	15
	井頭橋			18	11	7.5	4					
	井頭～火の橋中間			18	26	6.9	2					

・CODとは、水の汚れを示す指標で、数値が大きいほど汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで指標を判定している。2は最低値できれいな水、4～6は少し汚れている、8以上は汚れている。
・pHとは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
・表の（－）は、水がなくて測定不能、（欠）は測定機器の不具合等で欠測の意。

白子川周辺の生きものたち――①アズマヒキガエル　【日本固有種・準絶滅危惧種（東京都）】

カエル合戦

小林一茶の有名な俳句
「やせ蛙　負けるな一茶　これにあり」
これは、ヒキガエルのカエル合戦を詠んだ句です。病弱だった子、千太郎への応援だったともいわれています。

カエル合戦は、春の産卵のためにオスがメスを奪い合う戦いです。1匹のメスめがけて何匹ものオスが集まってきます。メスはたくさんのオスにしがみつかれて身動きできず、窒息して死んでしまうこともあるのです。

春、2月下旬～3月中旬の雨のあと、ヒキガエルの鳴き声が響き、カエル合戦が始まります。かつては武蔵野の風物詩でしたが、最近ではヒキガエルがとても減ってきています。その最大の原因は、産卵のための池がなくなっていることと、エサとなるコオロギやミミズのすむ草地や森が減っているためです。

（岡﨑一成）

オスがメスにしがみついたまま後ろのオスを蹴って離そうとしている図(上)と産卵直後の卵。一日後には卵ひもが膨らみ卵の間隔が広がる。▶

白子川と東京オリンピック

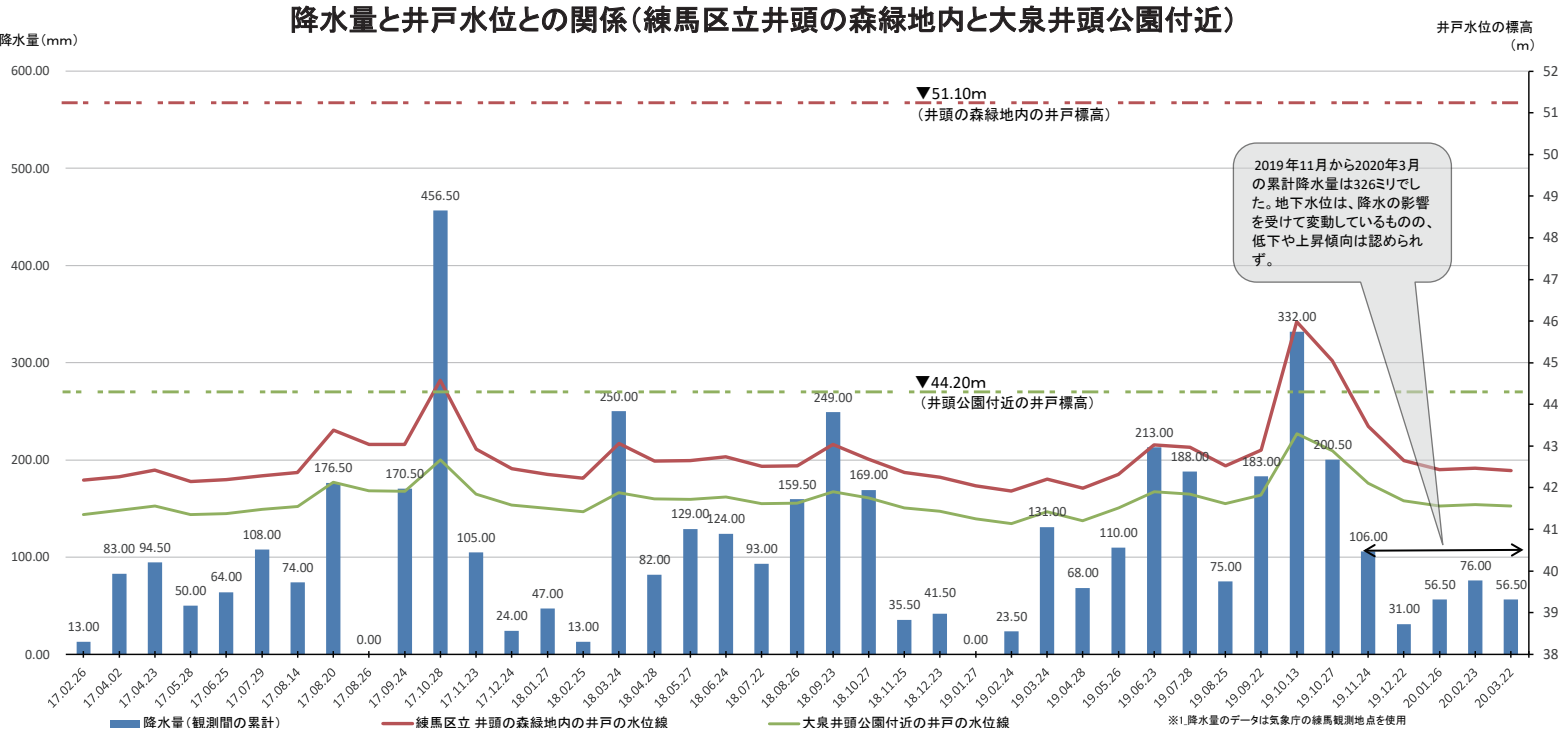
1年延期となった東京五輪、しかし延期されても解決されそうにない問題があり、それには白子川も無関係ではない。

白子川の水は新河岸川に合流し、さらに隅田川に合流してお台場で東京湾に注ぐ。トライアスロン会場になるお台場の水質がその問題である。

昨年8月のパラトライアスロンW杯では国際基準値を大幅に上回る大腸菌が検出され、スイムは中止となった。

23区の下水の8割が合流式下水道（右図）だからで、大雨で流入量が増えれば生活排水は川へ流される。井頭橋左岸（マルバヤナギの下）の護岸にある鉄格子（写真）もこの下水吐き室の排水口である。

五輪組織委員会がとった対策は何と「水中スクリーン」。三重のスクリーンを海中に配置し、競技海域を囲う方式を実験中なのだが、果たして効果のほどはいかがか。　（小川 郁）

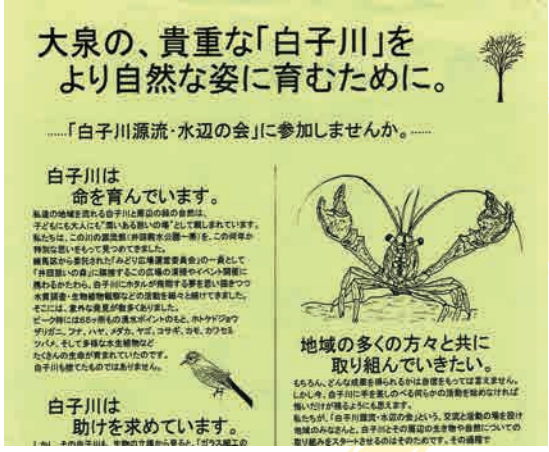


●第20回定期総会のお知らせ

2001(平成13)年6月に南大泉青少年館の和室で設立総会が開催されてから、早20年目を迎えました。

6月21日(日)午後に、記念すべき第20回定期総会を開催する予定です。

新型コロナウイルスの影響が心配ですが、改めてご案内します。



設立時のチラシ、当時の熱が少し伝わってきませんか。

◆“源流の森” 研究会って

白子川源流の湧水量は大変減っています。「湧水を増やすにはどうすればよいか?」⇒「地下水を涵養する森を作ることではないか」。

この思いで2016年にプロジェクト(現在は"源流の森"研究会)が始まり、本物の水辺と森・インフラ整備が調和した豊かな源流を目指しています。これからは「多自然川づくり」「健全な水循環の再生」「総合治水対策」をじっくり勉強していきます。研究会は、毎月第一土曜日19時から。ぜひご参加ください。

写真はドイツ・バイエルン州フィルス川流域の河川樹林
(1989年ドイツ建設局刊行物より 転載)

2月～5月 活動記録

2/8(土) 白子川源流の総合環境調査
"源流の森"研究会◆
15(土) 白子川探検隊
16(日) WE LOVE 白子川の会
23(日) 定例活動

3/7(土) "源流の森"研究会
(新型コロナ対策のためメーリングリスト会議)
15(日) WE LOVE 白子川の会
22(日) 定例活動

4/4(土) "源流の森"研究会
(メーリングリスト会議)

5/2(土) "源流の森"研究会
(メーリングリスト会議)
24(日) 定例活動(ヘデラ植え付け)

これからの活動予定

6/6(土) "源流の森"研究会
21(日) 第20回定期総会●
28(日) **定例活動**

7/4(土) "源流の森"研究会
19(日) WE LOVE 白子川の会
26(日) **定例活動**

8/1(土) "源流の森"研究会
16(日) WE LOVE 白子川の会
23(日) **定例活動**

9/5(土) "源流の森"研究会
20(日) WE LOVE 白子川の会
27(日) **定例活動**

白子川源流の
定例活動は、毎月第4日曜　午後1:30～

どなたでも川にはいれます！

編集後記

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が日本でも広がり、私たち水辺の会の活動も少なからず影響を受けています。予定していた講演会も延期となり、会報の編集内容も変更せざるを得なくなりました。そのため3月初旬に臨時編集会議を開いて協議の結果、今回お届けする内容となりました。急な依頼にもかかわらず、いずれも力作ぞろいで読み応えがあります。気晴らしにでも読んでいただければと思います。

この編集後記を書いている現在、まだウィルスの終焉は見通せませんが、この会報がお手元に届くころには感染が終息に向かっていることを願ってやみません。　(髙宮)

発行　白子川源流・水辺の会
https://shirakogawa.tokyo/
編集　小川 郁/喜多 浩子/髙宮 信三郎/永井 薫/日高 美南子
題字　宮本 沙海
発行部数　1,200部
共同代表　岡﨑 一成 / 菅沢 博
事務局　練馬区南大泉1-10-5
03-3923-8430 菅沢 博
※この会報は年3回発行しています。